和十八年十一月

ユダヤ問題を中心とせる思想國防

國際政經學會

ユダヤ問題を中心とせる思想國防

山崎能達

港の一歩外には、敵の潛水艦が待ちかまへてをり、海の彼方には、我が本土の心臓部を爆碎せんと、成層圏飛行の完成に全科學陣を動員してゐる敵國の熾烈なる戰闘意識を思ふとき、今日我が本土は擧げて一大要塞と化してゐることは申すまでもないでありませう。この要塞の守りに任ずべき大和民族は、乘るかそるかの有史未曾有の大戰に於て、その悉くが、金剛千早の砦を守つた楠公及びその一族以上に七生報國の祖國愛に燃えてをらねばならない筈ではありませんか。然るにこの要塞の中を仔細に檢討する時、果してこの祖國愛を裏切るやうな現象がないと申されませうか。

闇をやつても平氣であり、寧ろ巧妙に闇を行ふことを以て、あたかも巧妙にカンニング行爲を行つて發見されなかつたことを得意とし、みつかる奴が馬鹿なんだと、言はぬばかりの口吻をもらす學生に似た態度を執る人々がないでありませうか。

ぼろい儲けが、即ちぼろい利潤が得られねば、製造してやらないぞ、軍需品も造つてはやらないぞといふ態度を執る人々が未だにありはしないでせうか。

皇統二千六百年の傳統と申せば之を冷笑し、祖國が乾坤一擲の大決戰を行つてゐるのに對岸の火事でも見てゐるやうな態度で傍觀し、戰爭遂行の途中一ケ所にでも小さいつまづきでもあれば、鬼の首でも取つたやうな顔をして之を批判し、恰かも自分の祖國が英國であり、米國であり、ソ聯であるやうな口吻を以て、冷かに嘲笑したり、或は敵の物資の豊富なことを吹聽して却つて自國を輕蔑したりする敗戰主義者、即ち第六部隊的インテリがないでありませうか。

或はまた「科學に國境なし」の標語を掲げて、科學のための科學、眞理のための眞理を追求することが、眞の學問であると稱して、たとへ祖國が大決戰を遂行してゐやうとも之を頬冠りして、知らぬ顔の半兵衛をきめ込ん

で國家と無關係な自己の趣味の研究に沒頭することが眞の學徒であると超然としてゐるインテリがないでありませうか。

我が盟邦ドイツのゲッペルス宣傳相は、「インテリとは、彼が嗜つてゐる知識の量に對して、社會の一員としての勇氣が逆比例するところの或る種の所謂敎養ある人間の謂である。それは大抵の場合以前我が國に行はれてゐた全く誤つた、且つ誤たれた學校敎育、學校訓育の所産である」と申してをりますが、彼の言葉の中で社會を國家と入換へると、移して以て或る種の現代日本のインテリに對する定義となるではありませんか。

明治以來舶來上等の思想の波に便乘して來た、輸入された西歐諸科學にひそむ思想的バチルスは、潛航的に我が國インテリ層にその恐るべき國體破壞の威力を滲透させて來たのであります。

その議論が國家を乘越え、超國家的であり、非國家的であり、從つて祖國愛を冷笑し、國際的であり、抽象的形式概念遊戲に巧妙なる技巧を示すものが優秀なる學理であると看做される傾向が生れ、その結果誤れる前提を仔細に檢討せず、前提を鵜呑にして唯々その巧妙なる論理のからくりに迷はされて一歩々々亡國思想に引づられつゝあることに氣付かず、思想的に日本の國籍を失ひ、顏は日本人で魂は英、米人、卽ち和面英魂、和面米魂、和面ソ魂のインテリがぞく／＼出るやうになつたのであります。

かくして亡國バチルスの播布者ユダヤ人マルクスの「資本論」や「經濟學批判」、また遺傳的梅毒患者にして不道德漢の典型たりしフリー・メーソンのジャン・ジャック・ルソーの「民約論」や「エミール」に隨喜の淚をこぼさぬ者はインテリに非ずとさへ思はしめる時代をさへ生んだのであります。

拘束されぬ眞の「自由なれ」と叫んだルソーの自由主義思想は「自由は國王をも輕蔑するに至る」なる實に不遜なる言を吐かしめ、遂に大逆臣幸德秋水一派の不逞の徒輩を生ましむるに至つたのであります。

長くも明治天皇におかせられましては、明治十九年十月二十九日、御親ら大學に行幸遊され、校內施設隈なく御巡視遊され御還幸の後、時の侍講元田永孚先生を召されて、次の如く御下問遊されたのであります。

「主本トスル修身ノ學科ニ於テハ曾テ見ル所無シ和漢ノ學科ハ修身ヲ專ラトシ、古典講習科アリト聞クモ、如何ナル所ニ設ケアルヤ過日觀ルコトナシ。抑々大學ハ

日本教育高等ノ學校ニシテ、高等ノ人材ヲ成就スベキ所ナリ、然ルニ今ノ學科ニシテ政治治要ノ道ヲ講習シ得ベキ人材ヲ求メント欲スルモ決シテ得ベカラズ。假令、理化、醫科等ノ卒業ニテ其人物ヲ成シタリトモ、入ツテ相トナルベキ者ニ非ズ。當世復古ノ功臣内閣ニ入テ政ヲ執ルト雖モ、永久ヲ保スベカラズ。之ヲ繼グノ相材ヲ育成セザルベカラズ。大學今見ル所ノ如クナレバ、此中ヨリ眞成ノ人物ヲ育成スルハ決シテ得難キナリ。汝見ル所如何。」

と御下問遊されたのであります。

元田先生は既に勅命を奉じてその前の十月十八日に大學に赴き豫め教授科目、教授の實情を調査致してありましたので直に次の如く御奉答申上げたのであります。

「臣嘗テ大學々科ノ設ケヲ聞クニ修身ノ學科ナシ。和漢ノ學ハ各學科ニ和漢文アリト雖モ、僅カニ和漢ノ文章ヲ作ルノミ、哲學科ニ東洋哲學アリト雖モ是亦僅カニ經書聖賢ノ話ヲ述ブルノミ。加之僅カノ時限ヲ以テ匆々ニ經過スレバ和漢修身ノ學モ、僅カニ名ノミニシテ其勢將ニ廢棄セラレントス。其教科ニアル教官ハ物集高見、島田重禮等僅々タル一、二員ノミ。其餘ハ皆洋學專修ノ徒ニシテ、西洋ノ外面ヲ摹倣シ、曾テ、國體君臣ノ大義、仁義、道德ノ要ヲ關知セザル者共ナリ。彼ノ某等ノ著書ヲ一見シテモ、其放言スル所ニ依ツテ其思想ノ赴ク所ヲ概見スベシ。此等ノ腦髓ヲ以テ生徒ヲ教導セバ、後來ノ害實ニ恐ルベキナリ。今ニシテ此ヲ停止セザレバ、復挽回スベカラズ。」

と御奉答申上げたのであります。

帝國の前途を想ふ忠誠の一念は、言々句々火を發し熱を帶びてゐる。祖國觀念深き人の學問には勢があり、祖國觀念なきユダヤ化せる人の學問は冷やかであり熱がない。元田先生の悲眼誤たず、この最高學府より後年フリー・メーソンたりし吉野作造博士の主催せる帝大新人會から赤化學生を輩出せしめたのである。

芳川顯正が、その記した「教育勅語御下賜事情」の中に「抑々維新の當初、開國進取の大方針を立てさせられてより、新文明の空氣は全國に普及して、偏に西洋の物質的文明を輸入する事にのみ熱中し、仁義、忠孝の道の如きは殆んど國民の念頭に上らず、また偶々これを口にする者があれば迂遠にして時勢を知らぬ者として世人に嘲笑せられたのである。然れども明治維新の當初には、仁義、忠孝の教を受けた者が多かつたから、その人々は縱へこれを口にせずとも、兎も角これを實行してをつた

から、左程の害も無かつたのであるが、さういふ人はだんだん凋落して、明治時代に生れた者が、漸く世事に當るやうになれば、人の人たる所以の教育を受けない者が社會の表面に立つて國民を指導するといふことになるのであつて、遂に衆人稠座の中に立つて、仁義、忠孝などと古めかしきことは、今日文明人の重んずる所ならずと公言して憚らぬ者すらあるに至つた」と述べてをります。

かくて　陛下の御宸襟を御惱し奉つた當時の世相に對して下し賜はれる「教育勅語」こそ、潛入し來りし歐米の自由主義的個人主義的ユダヤ思想に對する思想的防壁たるの役目を持つたのであります。

抑々我が國最高學府、東京帝國大學の前身たる大學南校創設の御膳立をしたのがフェルベック、ブラウン、ウイリアムズ等の外國人宣教師にしてフリー・メーソンであつたのであり、從つて彼等が選定して用ひさせた教科書が何を目指してゐたかは想像がつくと思ひます。殊に教頭格のフェルベックは父がドイツ系、母がイタリー系のユダヤ人であつたのでありますから、當時の宣教師團が如何なる深い謀みを以てゐたかが知られるのであります。當時の大學南校の教壇に立つた多數の外人教師といふのが、國籍こそ異つても同じ穴の貉のフリー・メーソンかユダヤ人であつたのであります。

從つて世界に無比なる美しき我が大和民族固有の宗教たる神道を弱體化し、忠孝に基く教育を嘲笑し、政黨政治による政治の墮落を招來して我が祖國を壞滅に導かんとするこの道の猛者たるユダヤ・フリー・メーソンの連中が如何に明治以來大學南校を根城として亡國教育にその精魂を傾けて來たことでありませう。

されば、「教育勅語」によつて萬邦無比なる我が國體の有難さを説かれた少年が、上級學校に進むにつれて内心は國體を輕んずるの徒と化し、大學を出づるに至れば逆に國體を嘲笑し、更に國體を破壞に導かんとする赤化の徒と化する者さへ出づるに至つたのは、彼等フリー・メーソンの謀略の大成功を物語るものでなくて何でありませう。

ハムリンの鼠取りの笛吹きの笛の音が、ハムリンの町中の鼠を集めたやうに、日本のインテリを亡國的謀略、即ち「國體破壞の思想」に吸寄せる妙藥は、ユダヤ人學者共の巧妙なる形式論理や唯物辨證法であつたのであります。これを飾るに眞しやかな標語が、科學の純粹性であり、沒價値性であり、「科學に國境なし」といふ眞しやかな標語であつたのであります。

我が國最高學府にして然りとすれば爾餘の學校は皆これに「右へならへ」をやつたのは不思議はない。

田舍の兩親が苦勞して學費を送つて最高學府を出してやつた郷土への御土産が何と恐るべき國體破壞の亡國思想とは、親も本人も氣が付かなかつたのであります。かくて大學仕込みのユダヤ思想は皇國の永遠の地盤たるべき我が農村に注射され、農村を徐々に蝕ばんで行つたのである。農村の赤化がさうであり、また今日申されてゐる農村の資本主義化、コルホーズ化がさうでないと申されませうか？

水田に稻を育てることを我が子を育てる如くに慈み、利害を超越した、都市を隔ること遙なる我が農村の人々の美しさに『血と土』の強ききづなが生れ、熱烈なる祖國愛が育まれて行くのは當然であり、到底米を消費のみする都會人には想像つかないところでありませう。物心一如の境地は眞に稻を我が子の如く愛する稻作りの名人の心境の中にうかがはれる。天孫御降臨以來我が大和民族は水田民族である。水田の耕作は個々人の力では能率が惡く、自然家の一致せる協力を必要とし、遠方より灌漑の水を引くに共同して川を作り、更にこれを公平に分配せねばならぬために個人主義は淘汰され、共同、和協中庸的な觀念が發達するのである。都會の人間は個人主義的であるのはこれから見ても當然でありませう。

水が甚だ遠方の地から引かれ他の村々を通る時、或はその川を上流や下流の住民が共用する時、どうしても公平と正義と中庸なる妥協と平和の精神が發達することになる。この水の分配上の爭ひのために公平なる審判者を必要とし、こゝに爲政者の必要を見るのです。西歐の支配者は征服者であり、搾取者であるが、日本の支配者は、始めから統御者であり、仲裁者であり、正義と公平の維持者である由來はこゝから生れるのであります。

日本的な考へ方が或る全體の立場、即ち君國のためといふ如くから物を判斷する。これは我が齋庭の御神勅、水田耕作に基くに外ならないのである。

また、日本人の考へ方は、精神的なものが最も高く、それによつて初めて物質的なものが生きるといふ考へ方だ。西歐的考へ方は物をバラ〳〵に分解して見るといふやり方であるが、この考へ方の源はユダヤ人から來てゐることを記憶せねばならない。

西歐の哲學は源をギリシャ哲學に發してゐる。最も抽象的な哲學、即ち論理的な學問がギリシャに發達したがこのギリシャの學問は本質はフェニキヤ文化の影響を著

しく受けてゐる。ところでフェニキヤはパレスタインの北隣にあり、フェニキヤ人は人種的にはユダヤ人であつて、地中海で表向は貿易をやり、裏では海賊をやつたのであります。エジプトはナイル河によつて農業文化の發達したところであるが、出來た穀物は農夫にとつては非常に愛着が深い。しかしこれを買ふ方は單に味と品質、分量等を見るだけであります。

當時は貨幣として金屬を用ひたが、金屬ばかりでなく物々交換が盛んであつたので、これだけの米はどれだけの毛皮にあたるかといふことを決めねばならなかつた。併し農民自身にこれを決める力はなく、これがすぐピンと來るのは當時の國際的ユダヤ人たるフェニキヤ人であつた。そしてこれがフェニキヤ人からギリシャ人の手に渡つた。自分で作つた物を自分で使へば物の考へ方が有機的になる。ところで己れの作つた物が他人に渡ると物に對する愛着は關係は切斷され、商品その物としてしか消化されない。斯うして商業が地中海を背景にしてフェニキヤ人の手によつて發生し、物が貿易品として計算されるやうになつて來た。同時に所有權とか賣買契約といふ法律的な問題が起つて來たのであります。これがために物の考へ方がバラ〳〵になつて、分析的、抽象的になつて來た。これがギリシャ的な考へがユダヤ的影響を受けた原因の一つである。卽ち商業民族たるフェニキヤ人卽ちユダヤ人が商品の賣買を通してギリシャ的論理與なるものを發生せしめたのである。

また、ギリシャ哲學が起つたのは恐く植民地で興つた卽ち祖先、祖國を失ひ、または祖國を捨てゝ植民してゐる人間の住んでゐる世界に哲學が起つたのであります。故に哲學はその點旣に祖國を失つた植民地根性を相合するのであります。從つてその流れを汲んだ哲學は恐く國境がなく、祖國を失つてゐる。哲學をやると直ぐ「科學に國境なし」と言ひ出す原因がこゝに潛んでゐる。こゝに祖國を失つたユダヤ哲學者共の便乘する地盤が與へられることになります。

哲學の起つた時にはギリシャ人は祖先の有した宗教を排斥し、哲學と宗教との爭ひが起つてゐた。哲學は一般民衆の信仰に刄向つて宗教を貶したり、非難したりする所から起つてゐます。

祖國を有する眞の日本人が萬邦無比の國體に感謝するのに反し、祖國を失つた人間は何處へ行つても存在するやうなものを見つける。「萬物の根源は水である」なんと言ふターレスのやうな人間が生れる。これは祖先と祖國

を失つてゐる證據である。

哲學は既に祖先の有してゐた民族的な神と爭つて、これを否定し、從つて民衆から嫌はれ、多くの哲學者は家なしになつて追出された。斯かる祖國なき徒輩の言ひ出した哲學であつてみれば「科學に國境なし」と稱して、これが最も進んだ文化的思想であるやうに日本のインテリの頭を支配して、愛國とか祖國とか申せば、それは封建時代の思想であるかの如く考へられてゐる。こゝに輸入された哲學にはユダヤ人の思想が大いに影響してゐることを忘れてはならないのであります。ユダヤ人哲學者の著名な所では、サムエル・ヘ・レビー、サーディア、アヴィケブロン、バーヤ・ベン・ヨゼフ、スピノーザ、ベルグソン、コーエン、フッサール等があります。

殊に中世紀末のヨーロッパ哲學界はフランスを根據とするユダヤ哲學者に負ふところが甚大であります。

ユダヤ人が大衆を墮落せしめる方法は「三S主義」によるが、インテリの國家觀念を失はしめるのに最も都合のよいのが哲學概論、經濟原論、法學通論の三論主義であります。是等三論以外にもありますが代表的なものとして、この三論が選ばれるのであります。これ等三論に強調される共通的な亡國的スローガンが科學の普遍妥協性、純粹性、沒價値性であることを念頭に入れておく必要があるのです。祖國を失つたユダヤ人が普遍妥協性、純粹性、沒價値性を強調して國體とか民族の傳統とか歴史を忘れさせるやうに學問を建設するのが當然である。

歐米に於ては俗に經濟學のことを「ユダヤ學」と申す位にユダヤ人やフリー・メーソンの手にかゝつて作られた學問であります。プロトコールに曰く

「吾等の賢人に依つて發明された經濟學は、久しい以前から吾等が金權の上に君臨してゐることを示した。」

「斯くするために、吾等は勞働者を放縱と酒精とに慣れしめ、土地の上から奴等の有識者を追ひ拂ふ。」

「斯くの如き事態が發生する前に、奴等が時代の眞相を知らぬやうにするために、吾等は眞の目的を隱し吾等の行動を勞働者のためにすると見せかけ、今日吾等が敎へる經濟學を宣傳するのである。」

現代經濟學の祖父といはれるスミスに少からぬ思想的影響を與へた學者の一人としてユダヤ人ダビィッド・ヒユームがある。ヒユームは何等完全な經濟學理論體系を殘さなかつたが、「經濟上に於ける利己的活動是認の立場より個人的利益が社會的利益に一般的に一致する」とい

ふ原理を科學的に構成せんとした。從つてスミスが個々の人間が自己の利益のために活動することは富の生産の方面から見れば社會の富を最も多からしめる所以であり分配の方面から見ると社會の富を最も公正に分配する所以であるとの考へから、謂はゞ利益が卽ち公益に合致することを唱へ、各個人が利己心に基いて自己の利益のみを追求することは自ら社會全體の幸福を增進させるとするスミスの根本思想が國家の經濟政策として各個人の利己的活動を自由に放任することを最も賢明なりとする自由放任主義に導いてゐるが、こゝにユダヤ人ヒュームの影響が明らかに見られるのです。

卽ち個人が主となり、國家が添物的に輕視されてゐるユダヤ思想を見逃してはならない。スミスに出發した古典經濟學をユダヤ人リカードは、更にユダヤ人一流の推理力を以つて徹底させた。彼は產業資本の利益を代表して推理を推し進め、一見理路整然として分析に强く經濟法則を明確に把握し、後の社會主義經濟學に多くの遺產を殘した。

リカードに於てはスミスと異り形而上學と絕緣し、取引所ブローカー的臭氣を以て經濟的事實の因果理法のみを求め、經濟的事實のための經濟學の研究といふ面が强く前面に出で、國家といふ面が更に影が薄くなり、ユダヤ的色彩は一層濃厚となつて行つたのであります。

斯くてリカードにより發展された經濟學は遂に科學的經濟學なる虛僞の標語を揭げて登場し來つた。ユダヤ人マルクス（本名モルデカイ）によつて受繼がれ、その友ユダヤ人エンゲルスと共に社會主義經濟學が創造されるに到つたのであります。

ローザ・ルクセンブルク、ヒルファーディング、エミール・レーデラー、フランツ・オッペンハイマー、ベルンシュタイン、ラッサール、ベーム・バウエルク、エミール・ザックス、ロベルト・リーフマン、ルードヴィヒ・フォン・ミーゼス、セリグマン、ヨゼフ・シュムペター、グスターフ・カッセル、ポール・アインツィヒ等うるさい程多數あります。

彼等は只管「物慾」「金慾」の面に注目を拂はせることによつて國家觀念を稀薄ならしめ、進んで國家を抹殺するに巧妙なる論理の操りを弄したのであります。

マルクスに至つてはリカードの勞働價値說を土臺に階級鬪爭論を作り、國內をブルジョアとプロレタリヤの兩階級の鬪爭に導き、國家を混亂に陷入れ、然る後に國家の主要的地位を彼等ユダヤ人の手に掌握して國を亡ぼす

の「國民經濟學」に於て「經濟といふのは經濟主體の欲しいと思ふ財を確保することである。一定期間にその財を調達し、且つ消費することとである。國民經濟學劈頭の基礎概念は經濟及び經濟行爲である。この兩者の發生せる源は人間の本性であり、特にその慾望である」と稱して物慾充足が經濟であると說き、「人の物質的並に精神的文化の發達は慾望の成長とその醇化に存す。この慾望の增加及び醇化が一つの幸福であるか否かは宗教及び哲學であつて、國民經濟學の問題でない。」と物慾のみではばつが悪いと見えて慾望の醇化と一言ふれて、直ちに、これは國民經濟學の問題でないと逃げてゐる。單に物慾のみならば犬猫禽獸も人間も大差はないことになる譯で、唯物經濟學者は敢へてこの點を疑はぬのみでなく否これが人間の本能だから當然と心得るところに、人間をユダヤ化せんとするユダヤ學者の魔手は成功してゐるのである。プロトコールに曰く

「吾等は吾等の政府を多數の經濟學者を以て充した。ユダヤ人に經濟學を敎育することが最も重要なのは玆にあるのだ。吾等は、銀行家、工業家、資本家、特に百萬長者に取卷かれるであらう。何となれば、總ては數字の上で決せられるのだからである。」

といふ國家抹殺の意圖を有してゐたのである。

帝政ロシヤの末路、スペイン王室の沒落、フランスの敗亡、ヒットラー及びムッソリーニ出現前の獨伊の危機等はユダヤ主義の毒牙にかけられた結果に外ならない。

從來の經濟學は、要するに資本主義經濟を對象としたのであるから、それが古典派、オーストリー學派、數理學派、また資本主義經濟學の私生兒たるマルクス學派等にしても理論的構成は何れも國家を離れた「經濟の自己法則性」なる地盤に立つてゐる。こゝに經濟學のための經濟學を唱へ、祖國はソ聯、英米の如き口吻をもらし、英米、ソ聯を禮讃し、母國日本を輕蔑する和而猶魂のインテリが生れて來る源があるのであります。

資本主義經濟學でも、社會主義經濟でも物慾本位、金慾本位の經濟學であるからシャイロックの如き徒輩を養成するユダヤ學たるを免れない。從つて斯かる經濟學に基く限り如何にこれを修正するもユダヤ性を地盤としてゐるから資本主義經濟は勿論、統制經濟と雖もユダヤ經濟たるは當然である。

スミス以來經濟現象とは個人の慾望充足、卽ち吾人の物慾を滿足せしめる生活現象と解せられて來た。西歐經濟學の諸大家の學說を巧妙に綜合して編纂したフックス

ドイツの愛國主義經濟學者歷史派のフリードリッヒ・リストは「經濟現象は歷史現象である。歷史現象には自然法則が自然現象を支配する如き原則があつて支配されるものでない。歷史には時代それ〳〵の個性があり、その意味を明かにせずしては解らぬのが歷史である。故に歷史は一定の原則から演繹的と論斷することは出來ぬ。」と自己法則性を强調するユダヤ經濟學の急所を衝いて正論を吐いたのに、國際ユダヤ金融資本が絕對的優勢を占むる西歐に於てはリストの名言を封殺するため幾多の迫害が加へられたのであります。

リストはスミスの自由主義貿易を駁しながら「研究の結果私は經濟學の構成部分は(一)個人經濟學、(二)國民經濟學、(三)人類の經濟學であることが解りました。アダム・スミスは個人の經濟學と人類の經濟學とを論じてをります。彼は個人が他の個人と共に社會の富を如何に生產し、增加し、消費するかといふこと、また人類の產業及び富が如何に個人の產業及び富に影響を及ぼすかを說いてゐます。彼の著書國富論といふ標題が取扱ふことを約した事項を全く忘れてしまつたのです。各國民の勢力組織、缺陷、文化の現狀の相違を無視してゐるから彼の著書は若し人類が諸國民に分裂せずに世界法や平等の精神文化によつて結合される場合には、個人及び人類の經濟が如何なる姿をとるかといふ問題についての一論文に過ぎません。」

彼はスミスが個人の物慾に出發する經濟學とユダヤの世界制覇を目指した人類の經濟學を論じ、重要な國民經濟學を忘れてゐることを見事に衝いてゐる。

ユダヤ經濟學に於ては、第一に原論に於て物慾から出發する點に大きな誤を犯し、從つてこれを基とする政策も誤まつた。物慾に於て價値を論じ、生產交換を說き、分配、消費を論じてゐるため、人間の最大弱點に觸れて人心を引付けるため大衆を唯物主義に心醉せしめ、更に社會主義にまで引づり込むに至つた。

凡ゆる經濟政策を講ずるも物質本位、金本位の政策であるから、これが社會に及ぼす罪惡は、物慾を滿さんとする大衆に物質苦を味はしめ、物質的福利をもたらさんとする政策が却つて逆效果を生じた。

第二に資本主義に根ざす弊害を除かんとする修正資本主義、社會政策主義の實行は第一の缺陷を基礎とする限りその效果はなきゐるし、これを徹底的に改革せんとするかの如き社會主義經濟は階級鬪爭を生ぜしめて亡國の邪道に導く。

第三に物質本位の精神は科學萬能主義、唯物主義に通じ、ユダヤ經濟學を學ぶインテリをして冷い理智の人たらしめることになる。

第四は物質本位とする行動は利己主義、自己中心主義を生み、從つて斯かる經濟行爲は弱肉强食を生み社會を罪惡の坩堝と化し、實質上戰時下に於ては闇行爲を奬勵するやうなことになるのである。仕方がないから經濟倫理なんて申さないと始末が惡い。

討つべきは內なるユダヤ經濟思想である。日本の本來の經濟は經國濟民である。經國濟民であれば經濟倫理なんて苦い寢言を申さずとも倫理は當然その中にあるのであります。

法律學の分野に於て國家觀念を抹殺させるのに最も好都合なのは國法學であります。日本の國法學の輸入先であるヒットラー總統の政權獲得前のドイツに於ては、國法學者といふものが殆んどユダヤ人がフリー・メーソンか、その影響を受けた學者であつたのであります。主なるユダヤ人學者を拾ふと、シュタール、ラーバント、カウフマン、ケルゼン、ヘラー、イエリネック、フランツ・オッペンハイマー等があります。

これ等のユダヤ國法學者に共通な特色は、第一に理性の輕業ともいふべきまでに展開される主智的形式的論理構成である。特にケルゼンの場合には全く無信仰的であり、道德を缺いてゐる。

自然科學の世界は、物の世界であり、智識の世界である。從つて人間の世界を行爲的に考察せず唯智識的にのみ考察し、人間の世界を道の世界とせずして理智のみの世界として論ずる時は人を物と同一に取扱ふことになり人間を獸類扱ひにするに等しくなります。

第二に、純粹形式的論理をとるために有機的思想を排斥することであります。

全體と部分とが密接につながつてゐて、全體の立場から部分を制限するといふやうな有機體的思想は元來が自由主義的なユダヤ人には考へられないのです。

第三には、相對主義的である。ケルゼンによると相對主義は民主主義的思想が前提としてゐる世界觀であるから絕對的な民族國家觀念は生れて來ない。國を單に制度と見、器具と見るのであり、民族は生きた有機體でなく、國家權力に服從してゐる單なる人間の集團と考へるのである。

これ等の三點の結果としては個人主義、唯物主義になり、他面には血と土に基く理念が國家生活及び法律生活

の出發點にならないやうに言論的鬪爭と利害鬪爭とをもたらすことになる。一方には自由主義的無信仰的な「言論の自由」があり、他方には階級鬪爭がある。こんなユダヤ的態度には民族的な安定性も信仰も生れない。

昭和十三年八月二十五日に「帝大肅正期成同盟」の憂國の志士が長與東大總長に提出した進言書に次の樣な文句がある。

「現に東京帝國大學には我國體の根源たり國民精神の基礎たる惟神道を冒瀆し神社參拜を忌避する外來宗派を妄信し、各國憲法の上に自然法または國際法あり、國家は主權統治權を固有するものに非ずとする「天皇機關說」以上に兇惡なる、民族精神、國家傳統を否定する國際主義、世界主義を宣說しつゝある者あり（田中耕太郎氏、橫田喜三郎氏）人民に憲法を決定する權利ありとする徹底民主主義思想を固持して數年來憲法第一條、第四條を講義せざりしものあり（宮澤俊義氏）、軍隊は厄介物なりと放言しまた正義觀念を全く無視して法律と暴力とを同一視し、勞働小作爭議の暴動化を煽動したるものあり（末弘嚴太郎氏）、共產主義者と握手して共に人民戰線に立つて國家主義を爆破せざる可からずと公言し續けつゝある社會民主主義者あり（河合榮次郎氏）」「國內に於ける赤化容共の宣傳策源が帝大法經濟學部に存する事實を見るに於ては、豈我等皇國臣民の默視し得べき所ならんや」

美濃部博士の天皇機關說の基礎がユダヤ系ドイツ人學者イェリネックの「一般國家學」であり、田中、橫田兩教授の「國際法上位說」の基礎がユダヤ人ケルゼンの說であり、共產主義的論說の基礎をなすものはユダヤ人マルクス及び其亞流の說であります。

論理の分野からですと、欺かれてゐることが容易に判斷付かないかも知れませんから、一つ方面を變へて、繪畫を通して、如何にユダヤ人が、吾々の物の見方を歪曲せんとしてゐるかを示してみませう。

こゝに御覽に入れるのは、有名なスペイン系のユダヤ畫家、世界畫壇の最高峰と言はれるピカソの繪を模寫してみたのであります。題は「少女と雄雞」であります。これは「顏」といふ題で、灰色、靑、黑の調子の色感の作品です。線、色等の人爲的構成の外に何もない。男か女か、西洋人か東洋人か判らない。翼を引つ摑んでゐる少女らしき化物、その雞も異常なる暴虐さを以て反自然の表現をしてゐる。床の上の出刄鉋丁、縛られた雄雞の兩脚。洋畫家先生は、ピカソのこの繪を禮讚して少しも

疑はない事でせう。併しユダヤ化されない素人の目から見たならば、どう見ても不自然、不健康な繪としか見えない。否繪と申すのがどうかしてゐると申したならば、ピカソびいきの人々は憤慨するかも知れないでせうが、とにかく物の見方を歪曲してしまふやうに導けば、それでユダヤ畫家の目的は達するのです。「資本家」を畫けば必ず豚のやうな姿を畫いて醜惡な感じを起させ、「戰爭の繪」といへば血のしたゝる死體とか、首とか、足でも畫いて不快の感を抱かせて、反戰思想を煽れば大成功であります。世界の洋畫家のメッカ巴里は、ユダヤ畫家、ユダヤ畫商の巣窟であります。

ユダヤ金權の欲せぬ繪畫は畫商の自由なる支配力によつて完全にボイコットが出來る。パリー畫壇は畫商が中心となつた畫壇である。故に現代作家の作品は畫商のギャラリーに於てのみ見られる。從つてまた畫家の名聲といふものも、これ等の畫商が企てる「競り賣り」によつて定るのであります。巴里畫壇の樂屋裏は、この畫商と畫商にすがつて自分の名聲を上げんとする野心を持つた畫家との手練手管が繰り返されてゐるのであります。

新聞や雜誌は彼等の宣傳機關であり、美術批評家もその一味的存在であり、彼等の大部分が畫商の傀儡となつて、金のためには都合のよい批評を書くのである。嘘も三遍言へば本當になるのであります。

巴里第一のユダヤ畫商ローゼンベールの如きは、ピカソと特約する一方、あらゆる機會に發見される彼の作品を片つ端から買占めて、誰にも渡さない。かくてピカソの作品の專賣者となつて、一方では宣傳機關を通じて世界畫壇の最高峰と祭り上げ、獨占によつて、ひどい高價な市場價格を維持してゐたのである。獨占はユダヤの常套とする高等政策であり、獨占により思ふがまゝに高價なる値を出させる事が出來るのであります。

マチス、キスリング、スーチン等何れも著名なユダヤ人畫家であります。斯かる洋畫界の裏面を知る時、我が日本畫壇の重鎭、横山大觀畫伯が日本精神の象徴たる富士山を好んで畫く心境に對し深き敬意を表さねばならないと思ふのであります。

同樣な操りが學問思想の分野にも行はれてゐることが考へられねばならないのであります。横文字を通して入つて來た舶來上等主義の思想を禊して、日本人本來の心のあり方を取戻して御覽なさい。天皇歸一の精神に徹して御覽なさい。この照魔鏡に照して見るならば、ユダヤの思想謀略が看破出來るやうになります。ユダヤの亡國

的形式論理の操りが看破出來るやうになります。

日本の某學者が、ヒットラー政權掌握前ドイツに留學して有名なドイツの國法學者に敎を乞はんと訪ねた時、「ドイツに何をしに來た」と問はれた。そこで「ドイツに勉强に來た」と答へると、「ドイツに留學しても何も無いぞ。ドイツの學問はドイツのための學問だ。普遍妥當性なんてあるもんでない。早く日本へ歸つて日本の學問を作れ」と言はれたのであります。

またヒットラー總統の命を受けて現在日本に滯在し、日本精神の研究をされてゐる哲學博士ドリュックハイム先生は「日本人の建設すべき學問は日本人だけに解ればよいのだ。ドイツ人に解らなくてもよいのだ。ドイツ人の學問は日本人に解らなくてもよいのだ」と私に申されましたが、少くとも社會科學の分野に於ては、科學に國境なしのスローガンは如何に多くのインテリをユダヤ化するに預つて力があつたことでせう。國體なぞと世界共通でない、日本だけにあるやうなものを學問に取入れることは學問を非科學的にすることだと稱して、國體の觀念を導入することを排斥するユダヤ化學者が生れたのも當然であり、今なほ國體と言ふと神がゝりと冷笑する學徒が大部分であるのであります。

我が國に於ては、學問は萬邦無比の國體を地盤として建設されなければなりません。これを神がゝりと稱するのは既に頭が完全にユダヤ化され、無國籍化され、ユダヤ國際宗なる迷信に取りつかれてしまつたのであります。

個人主義と自由主義の空氣の中に育つた一般他民族に取つては、日本の國體の尊嚴なる所以は、また切腹の止むに止まれぬ所以は、これを完全に認識することは困難のやうであり、否出來ないやうであるが、自然科學の如きは頭腦さへよければ、他國の研究成果を比較的簡單に學んだり、利用し得る。そして理解の共通性は決して絕對的のものでなく、人間の個性及び環境によつて相對的に異るのであります。

從つてそこには國境が存在するのであり、國境の有る無しを以て直ちに眞理と虛僞とを識別する基準とすることは出來ないのであります。

理解の共通性の極めて乏しい眞理もあれば、また理解の共通性の多い虛僞もある。從つて假りに科學に國境なしとしても、それは科學の眞實性を證據立てるものではないのです。

また一方には或る國家乃至民族から發生した思想や學

問が、その國家、その民族のもつ政治的壓力によつて他國家乃至他民族に押付けられ、傳播し、そこで承認されることが實際に生ずる。アダム・スミスの經濟學の如きは、英國政府とユダヤ金權との合作によつて歐洲をその金權的支配下におき、英國政府と結託せるユダヤ人が印度搾取の先達に立つて英國資本主義を形成し、ユダヤの思ふまゝに制覇した體制を理論づけたに過ぎないことが見抜けないと騙されてしまふ。

吾人の世界觀が始めから超國家的、超民族でなければならぬといふ主張は、正しい基準を缺いてゐる。人間は先づ世界的、國際的立場に立つべきだといふ態度はユダヤ民族の放浪性が哲學に導入させたユダヤ的世界觀である。世界性國際性の名稱の下に自己に最も好都合なものを相手が殆んど意識せぬ中に押付けて來た既存の英米ユダヤ國際勢力に屈服するといふ政治的意味が隱されてゐることを看破せねばならない。金本位制度の如きはそれであります。

ユダヤ民族が自由に操縱し、事實ユダヤ人の國家たる英國はその植民地を攻略すると同時に、その貨幣制度に結びつけ金融並に貿易機構を支配することにより爲替貿易及び投資の利潤を獨占した。斯くて金本位制を基礎とする磅スターリングを世界に普遍化し、遂に金本位制を世界通貨制度と同意義ならしめ、これを世界經濟支配の基幹たらしめた。そして貿易に於ても自由貿易がその原則形態たることを理論づけ、これ等の機構を全部ロンドンに結びつけて世界植民地搾取組織を完成したのであります。スミス及びリカードの經濟學はこれを理論的に體系づけたに外ならない。金本位制は全世界の金の八割以上を奪つた英米ユダヤ財閥の取つた政治工作に由來することが見抜けぬ限り世界經濟は解らないのです。

日本の幣制、國內金融機構は金本位健全なりし頃までは金本位を通じ直接世界經濟と有機的關聯を持ち、世界經濟の覇權を握つてゐた英米ユダヤ金融資本の支配下にあつた。世界の景氣、不景氣と金融の緊緩等悉く敏感に國內經濟に反影し、自由主義經濟の特質として巨大なるユダヤ國際資本の好餌であつたのです。

大東亞戰爭の勃發はユダヤ國際資本の魔手を叩き切る好機であつたのであり、かくして「圓」の東亞共榮圈に於ける指導的地位は獲得されたのであります。

また先程申しました某教授がドイツで會話の稽古のため或るドイツ人の女學生を招いたところ、初對面に「今年は日本の紀元では何年ですか」と聞かれた。すると常

に西暦で數へるやうに習慣づけられて來たものだから、思ひ出せず、何んでも西暦に六百六十を加へればよいといふことを思ひ出して、頭の中で計算してゐると彼女は曰く「もうよろしい。日本の歴史は死んでゐる」と。これが僅か女學校の一、二年生の言葉であります。

我が國の國民學校、中學校の國史教科書に歐米ユダヤの歴史學者の體系が受繼がれてゐなければ結構であります。その國史教科書を通して祖國愛を高調せしめる一貫した流れが充分に出てゐませうか。ヒットラー總統がドイツの歴史を通して祖國愛をたぎらせたやうな仕組があるでせうか。單なる事實の羅列では歴史は生きてゐない。

ドイツの一少女に大の男が「日本の歴史は死んでゐる」と言はれる程に我々はフリー・メーソン的學者によつて骨抜きにされたかと思ふとユダヤの手口の如何に恐るべきであるかといふことが解りませう。

吾々は古事記、日本書紀を讀む時日本人の血の通つた讀み方をしなければならない。字句の解釋卽ち訓詁に終始した死んだ讀み方であつてはならない。大和民族の精神が躍動せる姿を捕へねばならないと思ふのであります。

第一次歐洲大戰に於てドイツは武力戰で勝つてをりながらユダヤの謀略に掛つて内部から崩壊した事實を身を以て體驗したドイツ民族は、如何なる困苦に遭ふともこの戰を勝ち通す決意でゐます。

ドイツ第三帝國の理論的建設者の一人であるフェーダーはその著「民族的社會的基礎に立つ國家」の中で次の如く申してゐます。

『ユダヤ人問題に關するフリッチの基本的勞作「惡神エホバ」や「ユダヤ人問題ハンドブック」を知らぬ者、ローゼンベルクの著書「時代の變遷に於けるユダヤ人の足跡」や「タルムードに於ける不道德」を知らぬ者、ヘンリー・フォードの公表せる「國際ユダヤ人」を讀んでゐない者、及びすべての非ユダヤ國民のための書物中の書物たる「シオンの議定書」を讀んで、なほ悟らぬ者――吾人はかゝる者とかりそめにもユダヤ人問題を論議することを拒絶しなければならない。併し、右に擧げた諸書を研究した後に、なほ敢へてユダヤ人のために辯護の言をなす者は、自分の血管の中にユダヤ人の血の流れてゐる者だけである。或は彼がユダヤ人から直接間接買收さ

れてゐるか、また或は經濟的にユダヤ人に依存してゐるかである。」

ユダヤ謀略の我がインテリ層に滲透してゐる程度は相當なものであります。「マルクスなんて恐しいものでない」とか「一度は戰時にはマルクスの思想を通過しなければ駄目だ」とか「大いに戰時にはユダヤ文化を取入れるべきだ」とか「自分の自由主義の學說は、今は戰時だから駄目だが、戰後はこの通りになるから今のうちに大いに勉强しておけ」とかかゝる無責任な言葉を平然と吐くインテリ、卽ち英米の第六列部隊的存在が今なほカムフラージして時機を狙つてゐる限り、思想戰の前途も多難であります。

我が本土が一大要塞と化してゐる今日、內に潛む英米ユダヤの第六列部隊的思想を看破して、萬邦無比なる皇國思想を以て、ユダヤの思想謀略に對し、傳統ある我が國を思想的危機より防ぐことこそ、戰時下日本的教養人が上　陛下に對し奉る責務でなければなりません。

皇道經濟は、天皇奉仕の經濟であります。換言すれば臣民の經濟であり、國體擁護の經濟であります。ハワイ攻擊の特殊潛航艇の九軍神の捨身の精神こそ皇道經濟の髄でなければなりません。物と金を乗り超えて、天皇に奉仕する經濟に徹した時にこそ我が國は英米ユダヤとの經濟戰に勝利を得る時でありませす。死を覺悟して莞爾としてハワイに向け出港した九軍神も銃後の國民も等しく有難き　陛下の赤子ではありませんか。尊き命を陛下から御預り致してをりながら利潤が少いから製造せぬ、闇をするとは、それでも　陛下の赤子と言はれませうか。皇道經濟に挑むものは內に潛む獅子身中の蟲、冷かにして打算的なる和面猶魂のソフィスト經濟學徒及び經濟人共であることを瞬時も忘れてはなりません。忠勇なる將士の背後より弓を引くものは斯かる徒輩である。「討てよ內なるユダヤ經濟を」と叫んで私の話を終ることゝ致します。(完)

昭和十八年十一月一日　印刷納本
昭和十八年十一月五日　發　行

非賣品

東京都麴町區内幸町　幸ビル内
國際政經學會
編輯兼發行人　蘇　理　伊　太　郎
東京都豐島區西巣鴨二ノ二七一二
印刷人　山　下　謙　之　助
東京都豐島區西巣鴨二ノ二七二一
印刷所　合資會社　光　文　社
（東東一八五三）

發　行　所
東京都麴町區内幸町　幸ビル内
國際政經學會
電話　銀座　一二一八
振替　東京　八一、八五八